

# 農 林 水 産 大 臣 賞 受 賞

都市農村交流を契機に東沢の農と暮らしを磨く活動を推進  
未来を担う若者に夢ある里をつなぐために

受賞者 ひがしざわちくきようどう 東沢地区協働のまちづくり推進会議 すいしんかいぎ  
やまがたけんひがしおきたまぐんかわにしまち  
(山形県東置賜郡川西町)

## ■ 地域の沿革と概要

川西町は、山形県南部米沢盆地のほぼ中央に位置し、南西部に飯豊山を臨むなだらかな丘陵地帯を成した中山間地域で、北東部は平坦な水田地帯が広がる農村地帯である。総面積は166.46km<sup>2</sup>で、大半を山林が占め農地は30%程度である。農地の約92%が水田として耕作され、山形県を代表する水田地帯になっている。町では、水稻を中心に畜産、野菜、花卉、果樹などを組み合わせた複合的な農業が営まれている。気候は、四季の変化がはっきりしており、内陸性の盆地型気候により寒暖の差が激しく、町全域が特別豪雪地域に指定されている。

第1図 位置図



注：白地図KenMapの地図画像を編集

## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

「東沢地区協働のまちづくり推進会議」が活動する東沢地区は、町の南西に位置し、戸数188戸、732名が暮らす中山間地域の集落である。地区の面積は24.75km<sup>2</sup>、うち12.6%が農地であり、大部分が水田となっている。

昭和40年代の基盤整備事業を契機に、水稻栽培技術の改善や施設の整備を行い、生産体制を充実させた。また、地域の優良な牛を増産するため、川西町の「町有牛貸付制度」を活用しながら、米沢牛の飼育にも力を注いできた。

第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落
地区の性格	地縁的な集団等
農家率 (内訳)	55.3% 総世帯数 188戸 総農家数 104戸
専業別農家数 (内訳)	97戸 専業農家 11戸 1種兼農家 38戸 2種兼農家 48戸
農用地の状況 (内訳)	313ha 耕地計 田 293ha 畑 16ha 耕地率 12.6% 農家一戸当たり耕地面積 3.0ha

※H17東沢地区の数値

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

#### ア むらづくりを推進するに至った動機、背景

東沢地区におけるむらづくりのきっかけは、昭和62年に出生数が2名まで減少し、少子化が顕著になったことである。それまでは毎年10名前後の出生があり、地区内には子供たちのにぎやかな声が響いていたが、住民は次の世代へ地区を“つなぐ”ことがこのままではできなくなると考え始めた。

地区の有志は、地区内のにぎやかさを取り戻し、存続を図るためには都市住民との交流が必要と考え、当時話題となっていた山村留学に着目し、昭和63年に山村留学検討委員会、平成元年に山村留学準備委員会、平成3年には地区内全戸が加入した山村留学協力会を設立した。

また、この頃の川西町<sup>かわにしまち</sup>では、町花のダリヤを通した東京都町田市との交流があり、当地区では山村留学協力会の設立と同時に、町田市の小学生を対象として山村留学を始めた。山村留学については、愛情を込めて「やんちゃ留学」と呼ばれており、都市との交流には欠かせない取組となっている。

#### イ むらづくり組織の設立

東沢地区では、21世紀の地区づくりの指針を検討するため、平成7年度に「東沢みらい21委員会」を設立し、翌年に「東沢地域整備計画」を策定した。この計画がきっかけとなり、平成8年度には住民総意の下で「東沢地域づくり推進協議会」を設立し、各種補助事業等を活用しながら東沢地域整備計画による地区づくりを推進した。平成16年には、協働のまちづくりを理念とする川西町<sup>かわにしまち</sup>第4次総合計画が策定され、当地区も新たな地区計画を策定することとなった。そして、新たな地区計画を推進する組織としてふさわしい名前とするため、平成17年に「東沢地区協働のまちづくり推進会議（以下「推進会議」という。）」に名称を変更した。

### (2) むらづくりの推進体制

東沢地区においては、地区内の自治会、東沢山村留学協力会等の各種団体の代表者で構成する推進会議が計画の進捗管理、情報・意見の交換、行政機関への提言等を行っている。推進会議は、5つの部会と地区の農業振興の中心的役割を担う夢里創造研究所<sup>ゆめり そうぞう けんきゅうしよ</sup>を設置し、地区の整備と産業の振興に関する事業を総合的に展開している。また、推進会議の運営方法等に対して答申するため、学識経験者で構成される運営審議会が設置されており、高度な推進体制を確立している。

## ア 各種団体

推進会議に参画する組織は、地区の4自治会のほか、東沢地区農業振興協議会、東沢中山間農地管理組合、東沢資源保全協議会及び東沢山村留学協力会であり、推進会議が実施する事業に協力している。

## イ 部会

部会としては、社会教育部会、福祉部会、衛生部会、整備部会及び防災部会の5部会が設置されており、事業計画に基づいた事業を実施している。

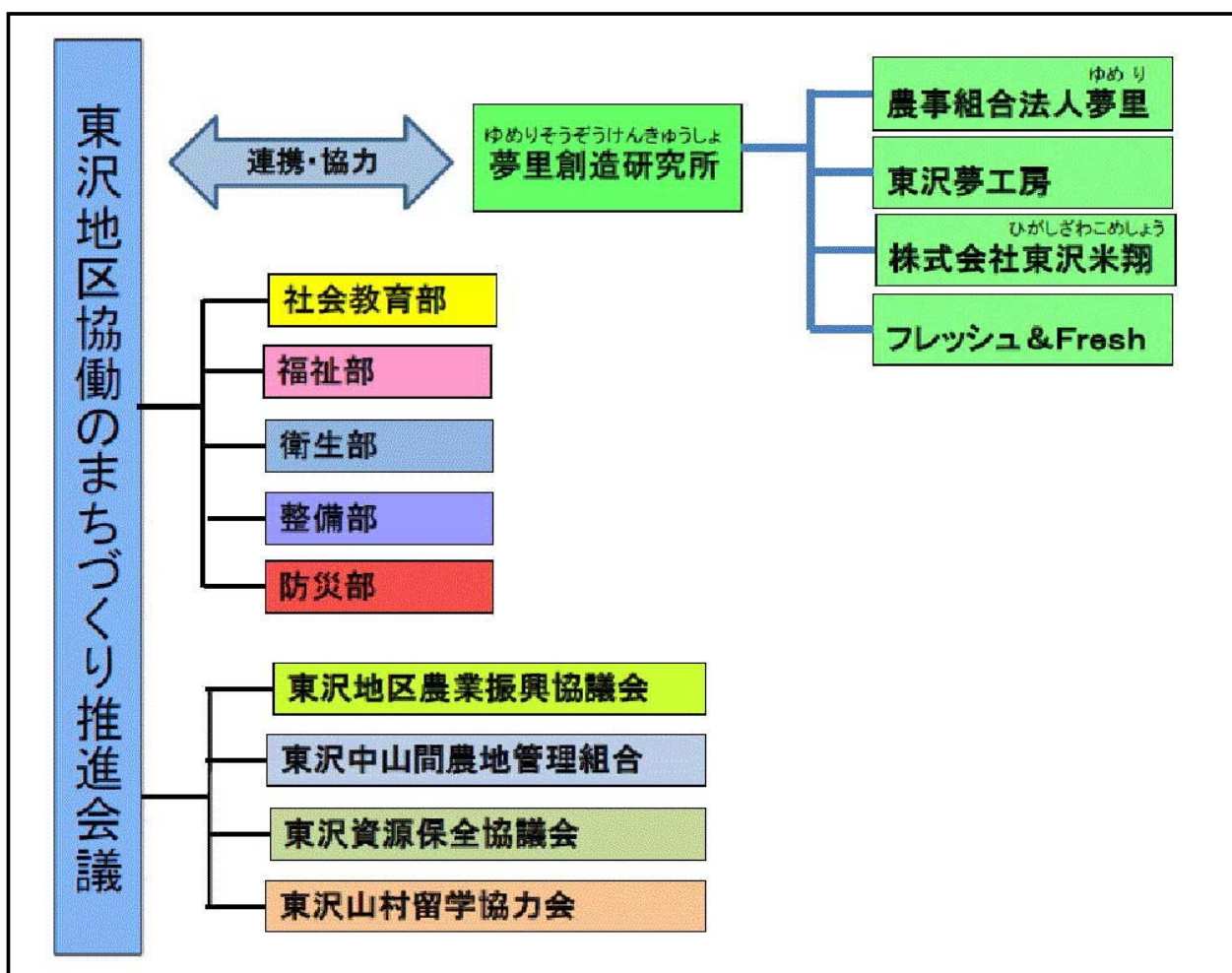
## ウ 夢里創造研究所

夢里創造研究所は、地区農業の振興を力強く推進するため、農産物の生産企画、販売企画等を担っている。

第2表 主な組織の役割

組 織 名	取 組 の 概 要
東沢地区農業振興協議会	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域営農組織の育成と法人化の推進</li><li>・畜産の振興とたい肥投入による土づくりの推進</li></ul>
ゆめりそうぞうけんきゅうしょ 夢里創造研究所	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域戦略作物の見直しと産地直売化の推進</li><li>・東沢産米のブランド化の推進</li><li>・地域資源の商品化、企画</li></ul>
東沢中山間農地管理組合	<ul style="list-style-type: none"><li>・生産基盤の整備</li></ul>
東沢資源保全協議会	<ul style="list-style-type: none"><li>・自然環境の保全</li><li>・食育、食農教育の推進</li></ul>
東沢山村留学協力会	<ul style="list-style-type: none"><li>・山村留学の継続・拡充</li></ul>

第2図 むらづくり推進体制図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

(1) 完成された組織運営と緻密な戦略

推進会議は、将来的な視点で課題を見だし、住民同士が徹底した話し合いを重ねて目的と目標を納得した上でむらづくりを実践しており、計画に狂いや組織運営に乱れが生じた場合は、すぐに修正できる体制を確立している。

また、都市と農村の交流に係る地区外に向けた情報発信については、全てが地区内交流につながるように工夫した上で実践されており、「生き活きと暮らしていくための環境づくり」と「暮らし続けて行くための生業づくり」を両立し、その目的と目標が順次達成されて着実に成果が現れている。

(2) やんちゃ留学

ア 2種類の留学

やんちゃ留学には、夏休み期間中に4泊5日で実施する短期留学と、原則1年間の長期留学があり、長期留学には前年度に短期留学を体験し

た児童だけが応募できることになっている。なお、留学生の募集は町田市が行い、東沢地区の協力会による面接の上で留学生を決定することになっている。これまでの21年間のやんちゃ留学では、短期留学生635名、長期留学生42名を受け入れ、都市と農村の交流を継続している。



写真1 やんちゃ留学短期留学生

## イ 多彩なメニュー

やんちゃ留学の実施に当たり、農村の技や人の温かさを体験してもらうため、地区では炭焼体験や米沢牛のバーベキュー、農産物の収穫や村祭への参加などの多彩なメニューを用意している。また、メニュー実施の際には、地区の子供たちと一緒に行動させるなど、地区全体で対応している。

## ウ やんちゃ留学卒業生との交流

町田市では、やんちゃ留学生とその家族で同窓会を作り、東沢地区の収穫感謝祭の時期に併せて2年に1度の同窓会を開催している。東沢地区においても、留学生を受け入れた里親で構成する里親会が町田市を4年に1度訪問し、交流を深めている。平成7年には、やんちゃ留学を経験した東沢地区と町田市の児童とその家族の総勢120名が町田市のお祭りに参加し、住民レベルの交流を行った。平成23年には、20周年記念事業を成功させ、住民同士の絆がより強固となった。

## 2. 農業生産面における特徴

### (1) やんちゃ留学から生まれたネットワーク

やんちゃ留学生の保護者が中心となって東京都町田市に発足した「まちだ夢里ゆめりの会」に、飲食店の店舗開発を職業とする会員がいた縁で、東沢地区と首都圏のおむすび専門店とのネットワークが広がった。これを契機に、夢里創造研究所ゆめり そうぞう けんきゅうしよが米の流通販売を行う「株式会社東沢米翔ひがしざわ こめしやう」を設立し、おむすび専門店へ地区産米の販売を開始した。平成19年からは特別栽培米（コシヒカリ）の契約栽培が始まり、「まちだ夢里ゆめりの会」会員への直接販売が実現したほか、おむすび専門店のうち4店舗では全量が東沢産特別栽培米となっている。

### (2) 農業振興と所得の拡大

ア 平成14年度から21年度の中山間地域総合整備事業の実施によって、農道や用排水路、暗渠排水あんきよが整備され、大豆やそばの転作が可能となった。

イ 株式会社<sup>ひがしざわこめしょう</sup>東沢米翔の構成員がエコファーマーの認定を受け、たい肥投入による土作りや減化学肥料と減農薬による米栽培を推進し、おむすび専門店やまちだ<sup>ゆめり</sup>夢里の会へ直接販売することで農業所得を拡大してきた。平成19年に2,300万円だった販売額が23年には4,200万円まで増加し、農家所得の向上に大きく寄与している。

ウ <sup>ひがしざわゆめこうぼう</sup>東沢夢工房は、田舎のお母さんたちの手作りによる各種野菜の味噌漬けや醤油漬けの開発、地元農産物を使用した加工品の生産販売、弁当の仕出しなどを手掛けている。販売額は平成19年度の290万円から平成23年度は450万円となり、女性の雇用の場や所得の確保につながる取組をしている。

エ 農事組合法人<sup>ゆめり</sup>夢里は、転作作業の受託や大豆、枝豆の生産に加え、平成20年度から新たに<sup>かわにしまち</sup>川西町特産の「<sup>べにだいず</sup>紅大豆」のオーナー制を開始した。オーナーが参加する栽培、収穫、加工作業などの交流事業を新たに展開することによって、平成23年度の販売額は3,000万円に達した。

オ 農産物直売所フレッシュ＆Freshでは、地元産の農産物や山菜を販売しており、平成23年度の販売額は130万円となった。

### (3) 都市・消費者との交流

推進会議では、平成20年度から新たに東京のおむすび専門店の社員研修を引き受けており、田植えや稲刈り作業の農業体験を実施している。その際には、「まちだ<sup>ゆめり</sup>夢里の会」の会員も農業体験に参加している。

また、前述の紅大豆のオーナー制のほか、平成22年度からは、宮城県仙台市の中学校の教育旅行の受入れにも取り組み、都市住民や消費者を対象とした交流事業を実施している。



写真2 オーナー制による紅大豆栽培

## 3. 生活・環境整備面における特徴

### (1) 交流人口の拡大

平成3年から継続している「やんちゃ留学」をはじめ、農業体験、教育旅行受入れなど、多彩な交流事業の実施により交流人口が拡大し、地区の活性化に結びついている。

### (2) 都市交流による地域振興

「まちだ<sup>ゆめり</sup>夢里の会」の発足によって、都市と農村の交流事業がより進展

し、会員のネットワークを通じた特別栽培米の販路開拓や、地元農産物の個人宅への直接販売など、農業従事者の所得確保に大きく寄与している。

やんちゃ留学が生み出した交流による地区づくりは、過疎化が進む山形県内の他の地域のモデルとなる一つの成功例だと内外から評価を受け、地区住民の誇りになっている。

### (3) 食農教育

毎月1回、土曜日に地区内の小学生を対象とし、そば打ちや豆腐づくり、しめ縄づくりなどの食と暮らしについての体験を基にした食農教育に取り組むため、「スマイルクラブ」を開設している。このクラブでは、児童会活動のほか、夏休み期間中に短期留学生と地区内の子供が宿泊体験をしながら農産物の収穫を行うなど、食への関心を高める取組も行っている。



写真3 スマイルクラブ(しめ縄作り)

### (4) 自然学習園の開設

湿地特有の貴重な生物(ハッチョウトンボ、モウセンゴケ等)を観察できるよう、中山間農地管理組合が補助事業によって地区内の塔ノ沢湿地に木道を整備した。毎年、児童たちの自然観察会等の学習の場となっている。



写真4 山村留学 自然学習会

### (5) 地区内の景観づくり

平成5年から、地区内を流れる黒川等の水辺空間の景観とホタルの保全を目的に、河川内の支障木伐採を地区の活動として継続している。また、地区の景観づくりの一環として、小学校の校庭を中心に約200本の桜を植栽し、地区で管理している。